

分科会企画シンポジウム “English Session: Asian Joint Symposium on Nanobiotechnology” 報告

ナノバイオテクノロジー分野の研究を一層活性化させていくことを念頭にシンポジウムを開催した。日本人研究者・学生に加えて、外国人研究者・留学生、関連研究を進める海外の研究者を取り込むため、English Session で行った。多数の投稿があり、ポスターと口頭発表とを分けて、二日間に渡って開催した。以下、セッションの様子について報告する。

ポスターセッションは9月13日に行われ、14件の発表があった。中分類12.6, 12.7と同時開催となっていたため、バイオ系関連分野のポスターは会場の半数近くにも及んだ。特に海外からの留学生が活発に議論しており、盛況であったといえる。

シンポジウムの口頭発表は9月14日に行われた。口頭発表の件数は全体で20件であった。会場への参加者数は最大時で70名近くになり、本シンポジウムへの関心の高さを示している。今回は、中国・韓国から3名ずつ、日本国内から3名、合計9名の招待講演者を招いた。招待講演のリストを以下に示す。



ポスター会場の様子。

Prof. X.-E. Zhang (Institute of Biophysics, Chinese Academy of Sciences)

“Sensing molecular events of virus in live cells”

Prof. K. Ijiro (Hokkaido University)

“Plasmonic nanostructures based on self-assembled nanoparticles for biosensing”

Prof. M. B. Gu (Korea University)

“Aptamer nanobiosensors for ultrasensitive detection of pandemic viruses, type 2 diabetes biomarkers, and antibiotics”

Prof. C. Fan (Shanghai Institute of Applied Physics, Chinese Academy of Sciences)

“DNA nanotechnology-based organization on the nano-bio interfaces”

Prof. Y. Tanaka (RIKEN)

“Micro fluidic chip and glass microfluidic control devices”

Prof. J. Choo (Hanyang University)

“Application of nanoplasmonics-based microfluidic sensor for highly sensitive biomedical detection”

Prof. N. Gu (Southeast University)

“Field-directed assembly of magnetic nanoparticles and potential application in biomedical nanotechnology”,

Prof. J.-K. Park (KAIST)

“Microfluidic multiplexed assays using tissue samples of human breast cancer”

Prof. Y. Haga (Tohoku University)

“Development of minimally invasive medical devices and healthcare devices using microsystems”

細胞内における分子反応の解析のようなベーシックな研究から、マイクロ流路を用いたセンシングデバイス、MEMS 技術を駆使した医療応用研究まで、幅広く発表された。ディスカッションも活発に行われた。最先端の研究成果を知る絶好の機会であったといえる。招待講演者による最新の研究成果発表に加えて、一般講演の中では、学生や若手研究者の発表も多く見られた。世界の最先端の研究者らが集う中で堂々と発表しており、今後の活躍が楽しみである。



シンポジウム会場の様子。

今回、シンポジウムを English Session の形で企画した。応用物理学会のナノバイオテクノロジー分野での新しい試みといえる。世界に向けて研究成果を広く発信していくためには、普段の講演の日本語での議論に加えて、英語による発表とディスカッションの場を整えて進めていくことが重要になってきている。日本に来ている留学生や研究者の発表の場としてのニーズも益々高まってくると思われる。今後もこのような English Session を行うことを検討している。ご期待いただきたい。



シンポジウム招待講演者を交えて。

シンポジウム世話人：

豊田工業大学 熊谷慎也（文責）、広島大学 柳瀬雄輝、奈良先端科学技術大学院大学 竹原宏明、北海道大学 三浦篤志、大阪大学 民谷栄一